

# てんかん看護

国立病院機構 名古屋医療センター  
原 稔枝



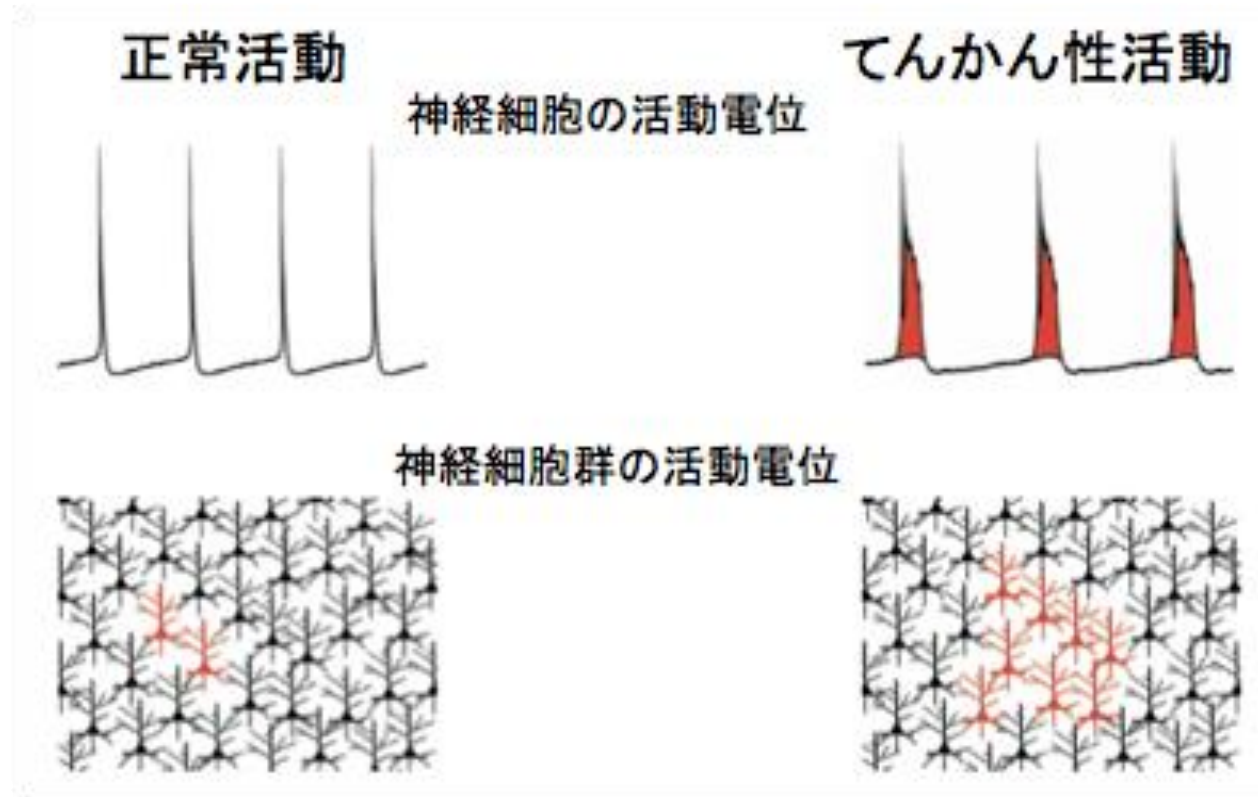
てんかんについて

# てんかんとは...？

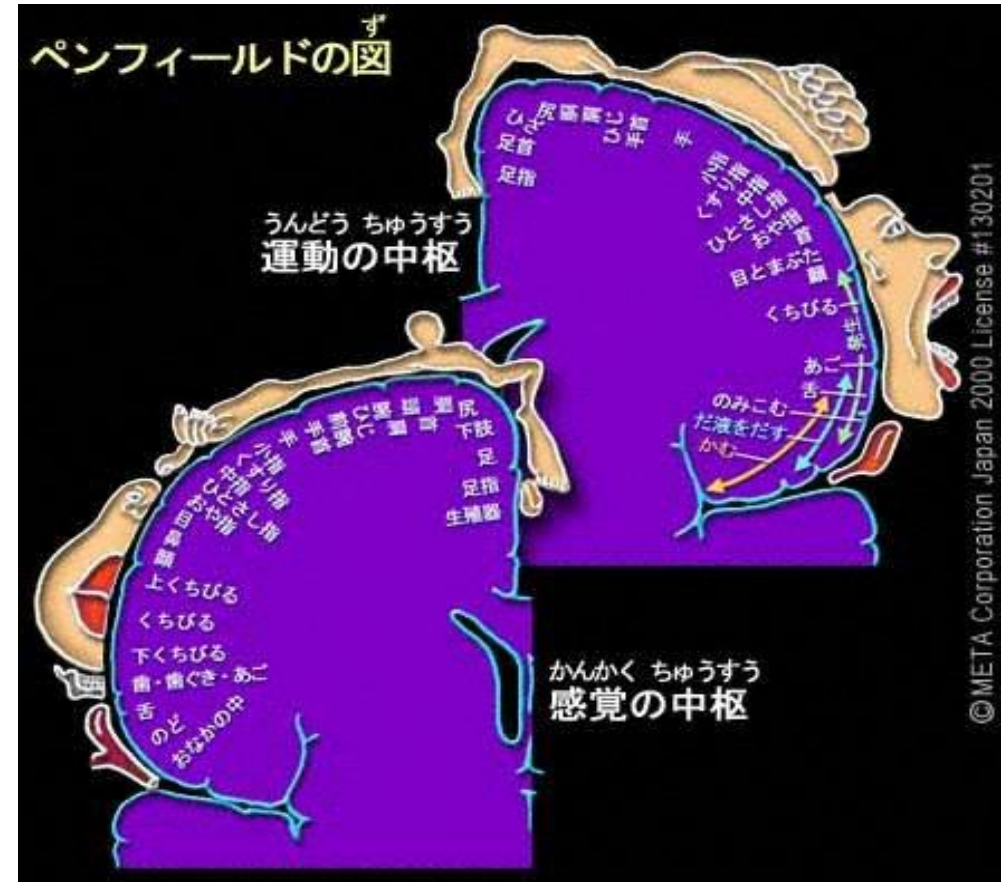
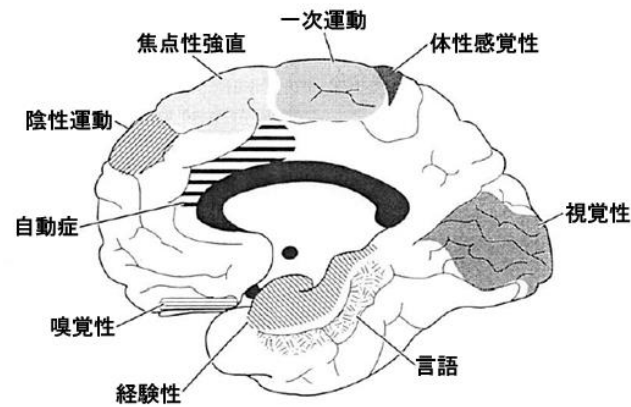
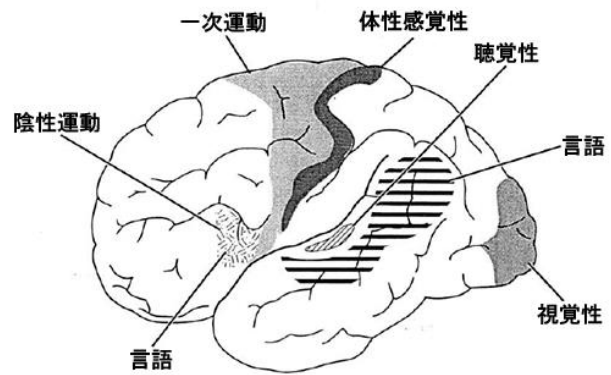
脳の異常な興奮性の神経活動のために生じる  
一過性の症状がてんかん発作

※てんかん発作が生じる原因は、  
人により様々である

# 神経細胞における電気活動



# 大脳の機能と発作症状の関係



Luders HO, Noachtar S: Atlas of epileptic seizures and syndrome. WB Saunders, Philadelphia, 2001

# てんかん発作の症状

意識消失

けいれん

手足のしびれ

手足のピクつき

パタンと倒れる

眼球偏視

笑う





# てんかんの診断

# てんかんの診断・治療の基本的流れ

てんかん発作型の決定



てんかん類型・症候群の決定



治療方針の決定



# てんかんの診断・治療の基本的流れ

発作症状

脳波

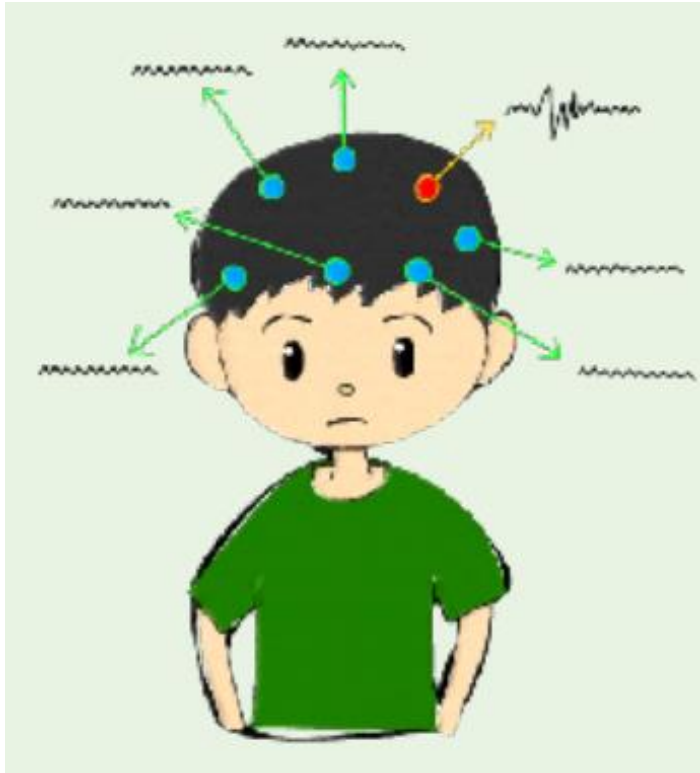
てんかん発作型の決定

てんかん類型・症候群の決定

治療方針の決定

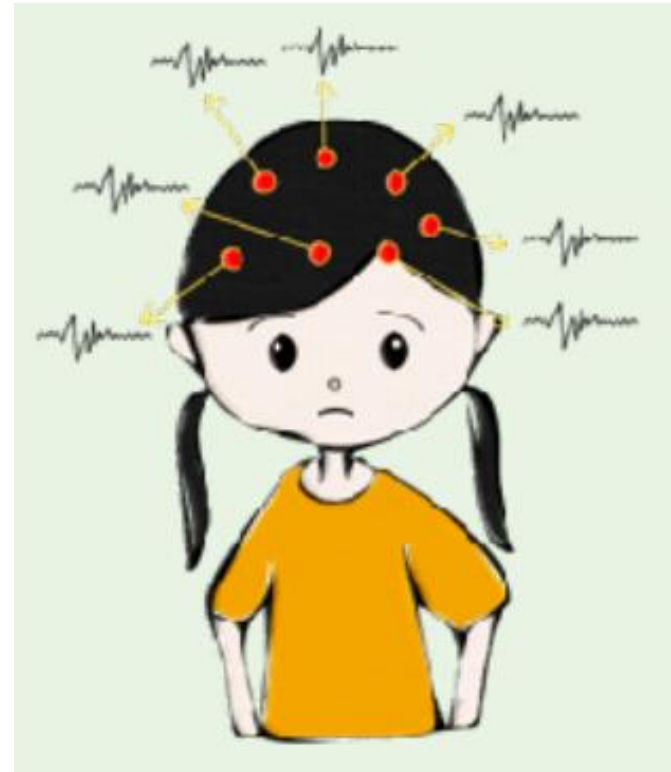
# さまざまな**発作**がある

## 焦点起始発作



脳の一部分が  
巻き込まれる

## 全般起始発作



脳の両側が  
巻き込まれる



# 検査における援助と注意点

# 脳波検査の種類

## 頭皮上検査

頭皮に電極を装着して記録

通常脳波検査 …… 1時間前後

長時間脳波検査 …… 数時間から数日

## 頭蓋内検査

開頭術を行い、脳表面や脳内に直接電極を配備し記録

# 検査における精神的ストレス



検査オリエンテーション(DVD)  
事前見学  
テレビ・DVD・ゲーム  
コミュニケーション  
表情、言動の観察  
集中と緩和(休息)



# リスク評価 てんかん発作の情報収集項目

前兆の有無	発作が起こりやすい時間帯・状況
発作中の意識の有無	発作の誘因
発作時の転倒の有無	発作による受傷歴
発作中の行動パターン	発作の頻度
発作後の状態	薬の減薬による発作増加
回復までの時間	薬の副作用



# 発作による安全対策

発作症状に合わせた環境を提案



トイレや移動時は付き添い



椅子に座って行う



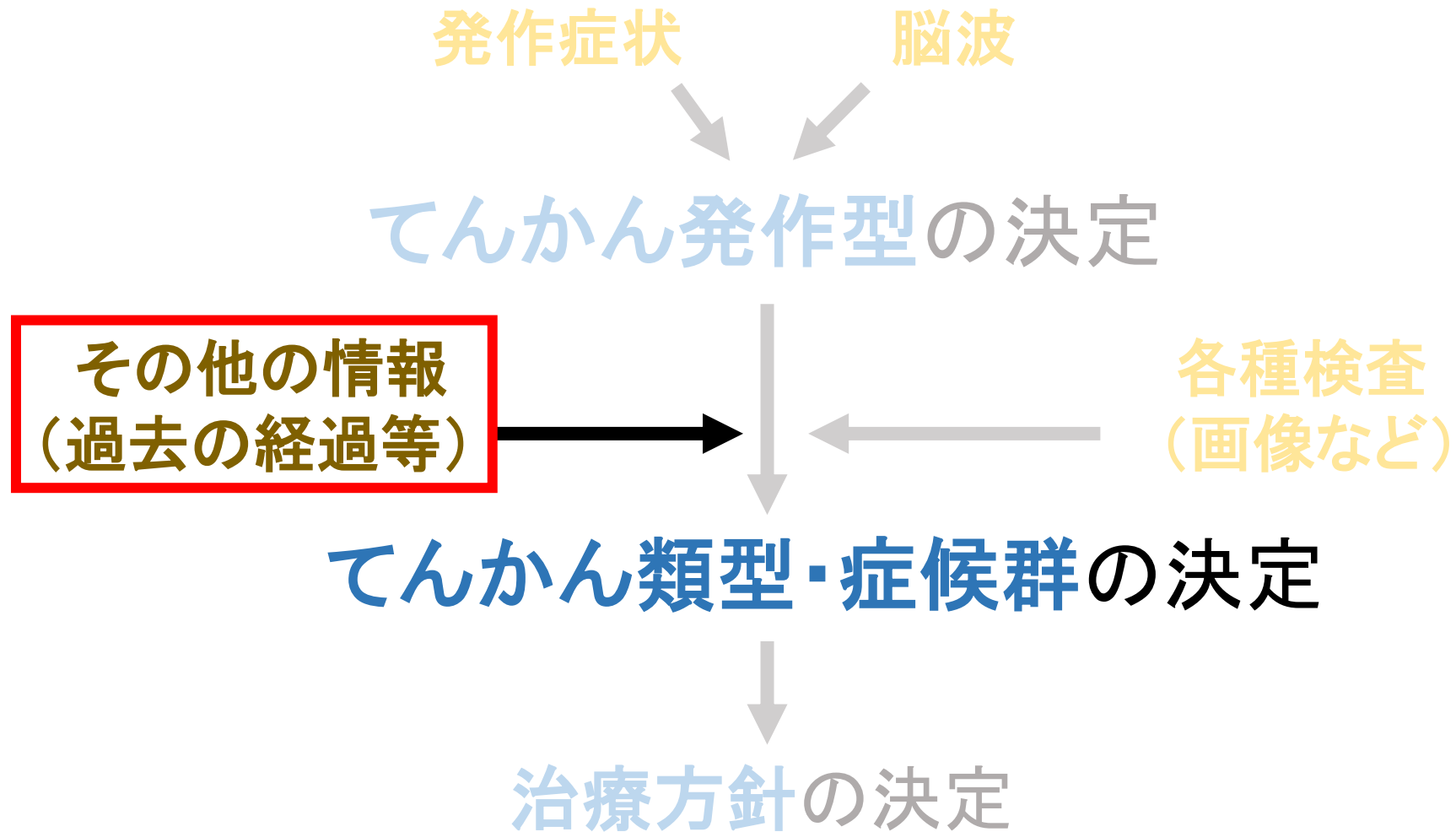
床に直接マットを敷く

unnecessary items are not placed

bed is low and bed rails are movable



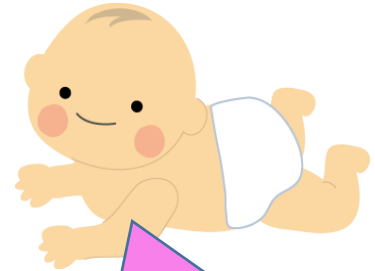
# てんかんの診断・治療の基本的流れ





# 発作の具体的な様子は診療に大切な情報源！

- 発作は、どんなときに起こったか？
- 起きている時？ 眠っている時？
- 発作で倒れるか？ バタンと？ フラフラと？
- 身体に力が入っていたか？ 左右差はあったか？
- 顔色の変化は？
- 発作のときに受け答えできるか？ 反応はあったか？
- 眼球偏位は？
- 発作の長さほどのくらいか？
- 失禁の有無は？



困りごとがみえる！  
アプローチのヒント





# てんかん発作の観察

# 発作に出会ったら

**まず、自分の気持ちを落ち着かせ**

**冷静になりましょう！**

突然起こる発作ですが、ほとんどの場合は自然に  
終わり、発作そのものが致命的になることは滅多に  
ありません

## 発作の誘発因子

- 覚醒時 : すっきり目覚めている時か, 眠気がある時か
- 睡眠時 : 入眠時, 熟睡時, 寝起き
- 身体状況 : 発熱, 興奮, 過労, 寝不足, 月経など
- 生活場面 : 入浴, 食事, 運動, 休息
- その他 : テレビ, ゲーム, 閃光, 大きな音など

誘発因子がわかると, 危険な状態の回避・発作コントロールに繋がる

# 発作時の観察ポイント

## 発作の始まり

病気の分類をする上で貴重な情報

動作が止まる, 転倒する勢いや方向, 力の入り具合  
けいれんしている部位, 手や足の伸屈, 眼球の向き

## 発作の進み方

発作の波が脳の中でどのように広がるのか推測する情報

姿勢・表情の変化, 発作中の身体の動き(自動症)

## 発作後の様子

呼びかけへの反応, 手足の麻痺の有無, 言葉の理解  
興奮やもうろう状態, 睡眠に入るか

# てんかん発作の対応

## 焦点意識減損発作（意識障害がある発作）

### 症 状

- 無目的に歩き回る
- 意味のわからないことを言う
- 衣服近くにあるものをまさぐる
- 口をムニャムニャさせる
- 多くは発作中の自分の行動を覚えていない

### 対 応

- 無理に行動制限をせず、観察しながら傍で見守る
- 危険回避ができないので、傍にいる人が危険物を取り除く
- 名前を呼んだり、今居る場所を聞くなど意識の回復の仕方を観察する
- 意識回復後に前兆の有無を聞く
- 発作が小さくても繰り返す場合は、目を離さない（発作重積の可能性）

# てんかん発作の対応

## 焦点起始両側強直間代発作

- 症 状
- 全身が硬くなり、細かなけいれん後、ガクガクとした動き
  - 顔色不良
  - 呼吸回復時、口の中の唾液を噴出する
  - 発作後眠りに入る事が多く、朦朧状態になることもある

- 対 応
- ・危険な場所であれば安全な場所に移動
  - ・転倒により頭を床に打ち付けないように保護する
  - ・けいれん中は無理に押さえ込まず見守る
  - ・けいれん終了後、呼吸が回復したら唾液や異物の誤嚥防止に努める
  - ・睡眠に移行した場合は、無理に起こさない
  - ・発作後の回復には個人差があるので、普段の対応を目安に起こす

## 発作の群発・重積

けいれん発作が3～5分以上止まらない  
けいれんはしなくても発作を何度も繰り返す

### 対処方法

- スタッフへ応援要請
- 指示に従い、頓服、点鼻、血管確保などの処置
- 主治医、または当直医に連絡
- 時間経過ごとの発作症状を観察記録する



## 発作の最中にしてはいけないうこと

- 身体を押さえつめる
- 大声で呼びかける
- 口の中に物を入れる
- 口の奥に指を入れる



# 発作症状の観察と対応の注意点

- 発作の**誘発因子**を理解し、**最小限の制限**で生活する
  - いつ、どのような時に発作になりやすいかを知り
  - できる範囲で誘発因子を除去した生活を提案





# てんかん発作と生活支援

# てんかん発作時の安全への配慮

てんかん発作で倒れた際、  
受傷しないような環境を  
予め整えておくことが大切



# 療養環境の調整①

ベッド



高柵ベッド





## 療養環境の調整②

プレイコーナー



肘掛のある安定した椅子とカバー



# 浴室環境の調整

浴室



脱衣室



洗面所



## 入浴中の発作への対応

- 身体を支えて水面から顔を出す
- 浴槽の栓を抜く
- けいれん中は水中で体を支え、無理に引き上げない
- 発作が治まったら、ゆっくり水から引き上げる
- 溺れている場合は、ただちに水から引き上げ、  
救急処置を実施



# 食事時の安全への配慮

熱湯は避ける

プラスチックの食器

家具にカバー



保護帽着用

ひじ掛けのある椅子

## 食事中の発作への対応

- 口の中に食べ物が残っていても無理に出そうとしない  
指やタオルなどを口に入れると、窒息や口腔内を傷つける危険大
- けいれんなど発作が止まったら、顔を横に向け誤嚥を防止
- 誤嚥の可能性がある場合は、すぐに吸引などの処置を実施

## 薬物療法と看護



- 体重変動を把握し、微量で薬物調整
- 定期的に薬物血中濃度を測定し評価
- 薬物調整に伴う発作状況の変化，副作用症状の出現に注意  
→ 発作が群発してしまう症例もある
- 発作や副作用による生活への影響・リスク管理

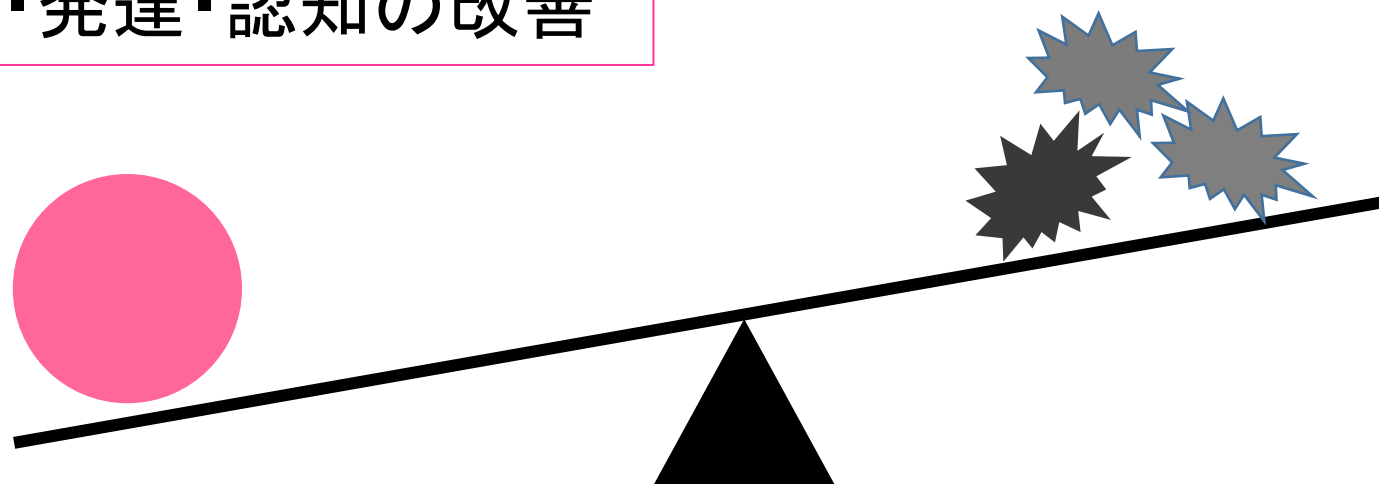


## 効果

発作  
頻度  
程度  
長さ  
日常生活への影響  
行動・発達・認知の改善

## 副作用

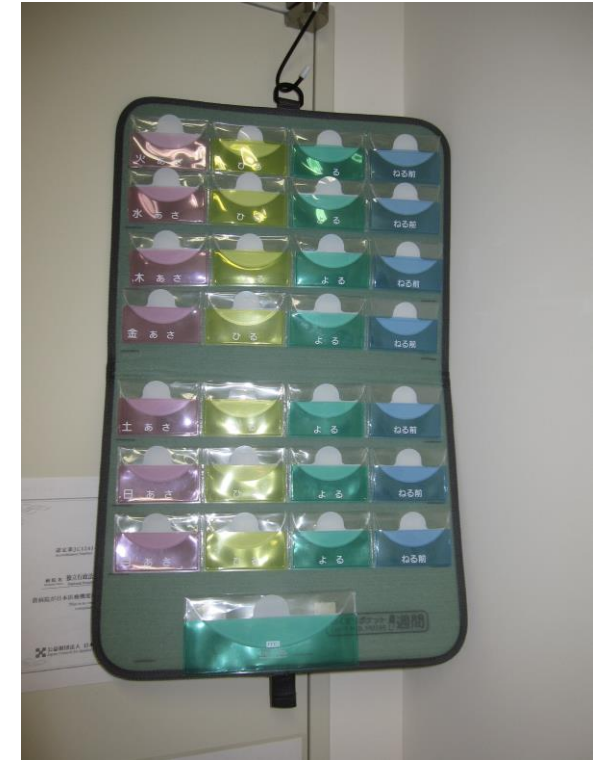
眠気  
ふらつき  
行動面の問題  
多動, 興奮  
分泌物増多



# 服薬管理

\*「なぜ薬を飲むのか」分かりやすく説明し、  
自分で服薬できる方法を身につける

- 決まった時間にステーションに来て服用する習慣づけ
- 確実に内服するよう指導
- 飲みこぼしがないか確認
- 能力・理解力に応じた自己管理方法の提案
- 服薬コンプライアンスから、服薬アドヒアランスの考え方へ





てんかんをもつ方と家族への心理ケア

発作

薬の副作用

成長の遅れ

生活機能

就学

様々な併存症

就労

車の運転

自信喪失

結婚

出産

社会の  
偏見

予後

医療費



当事者

## てんかんを持つ当事者や家族の特徴

- 発症後間もない時期は、受け入れたくないという思いが強い
- 常に発作がいつ起こるのかという不安を抱えている
- 周囲も過保護・過干渉になりやすい
- 偏見や過剰な制限や対応を受けることがある
- 周囲から孤立し、誰にも相談できず多くの不安を抱えやすい
- 問題の原因を、全て発作によるものと転嫁することがある

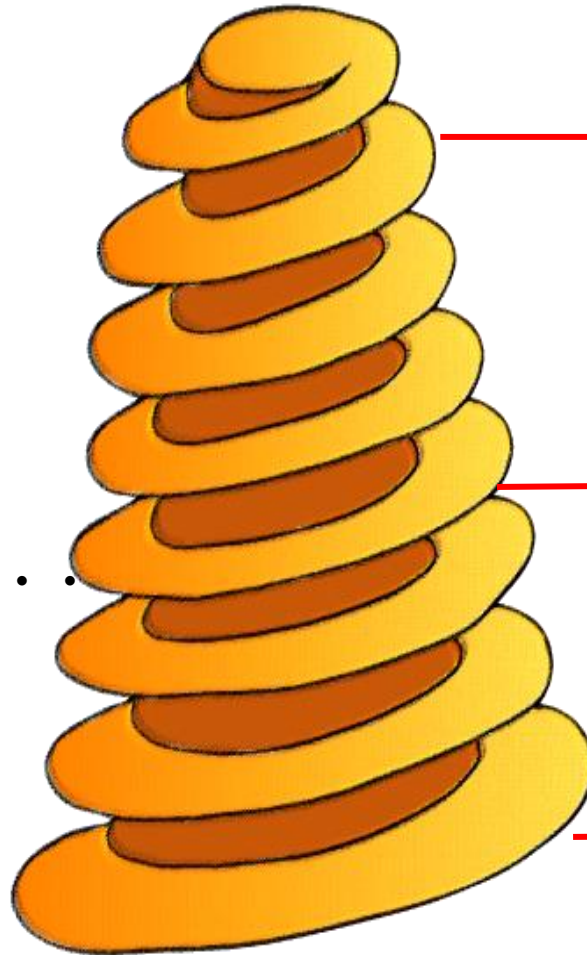


## てんかんの病状に対する理解への問題

- 発作観察に振り回されてしまい、**発作の出現に一喜一憂**してしまう
- てんかん発作の症状が当事者や家族に恐怖心や不安感をもたらし、**適切な病気や障がい受容を妨げてしまう**
- 発作に遭遇する機会が多いほど、周囲は**過保護**になってしまう
- 学校や就労で過剰な制限や対応を受けやすい
- **病気に振り回され**、自分に自信がなくなっていく

# 病気・障害の克服への道

8. 仲間づくり  
行動しよう
7. 活動  
これをしよう！
6. 受け入れ  
今やっとわかった！
5. 抑うつ  
何のために？意味ないよ！
4. 病気との関わり  
もしそうなら、～せざるをえない・・・
3. 怒り  
なぜ私が？
2. 確実  
こんなことありえない！
1. 不確実  
一体どうしたんだ？



段階Ⅲ  
目標期

段階Ⅱ  
通過期

段階Ⅰ  
導入期

# てんかんの病状に対する理解への対応



- 家族で病気を受容し、家族全員で病気と向き合う
- てんかんがあることを特別視しない
- 周囲の偏見に惑わされずオープンなコミュニケーションを心がける

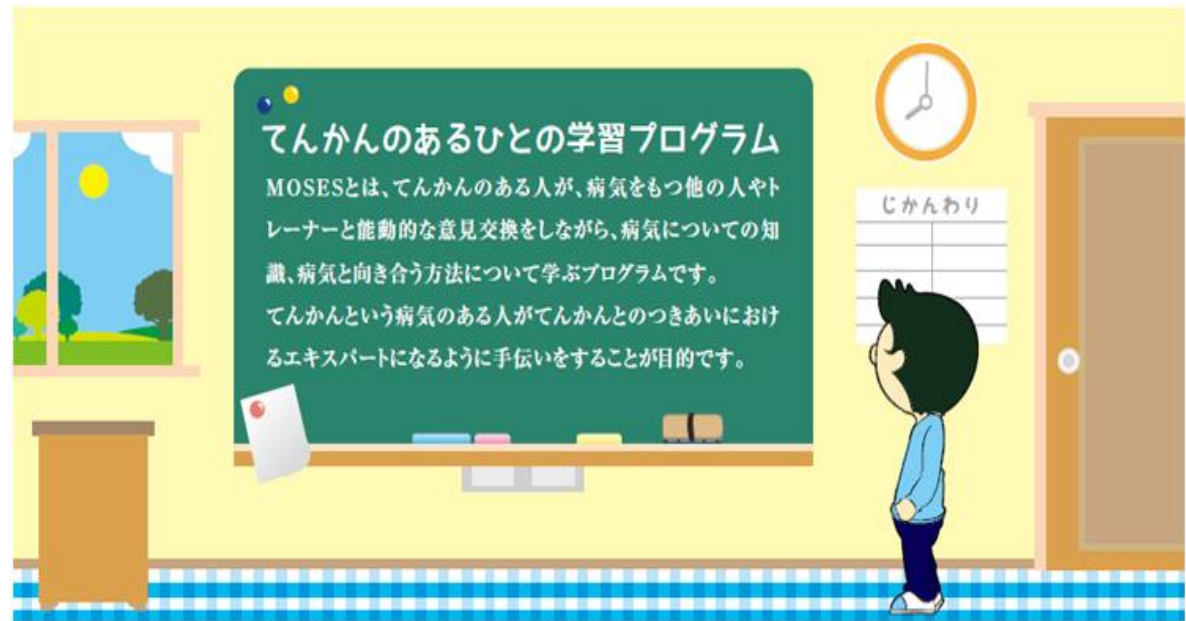
# 周囲への告知について

## 告知することへの不安

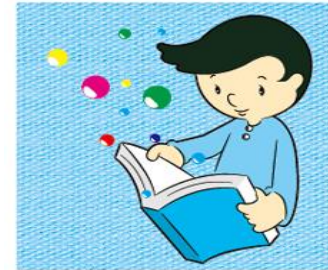
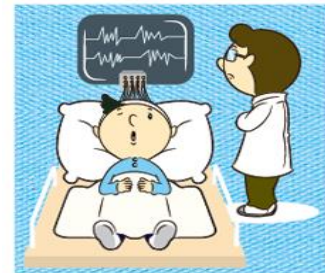
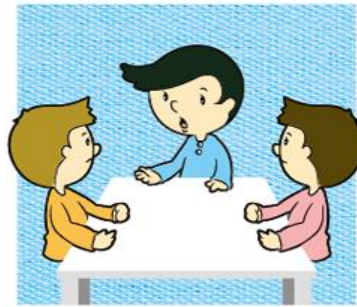
- ・告知すると、人が離れて行ってしまわないか
- ・学校でいじめにあってしまうのではないか
- ・会社に解雇されるのではないか

## 対策

- ・周囲に病気を肯定的に伝える
- ・病気を正しく理解してもらえるように、本人・家族・学校・主治医  
看護師とで協同し進める
- ・病気や本人の思いを正しく理解してもらうために、**本人と家族自身  
が病気を正しく理解し受け止める**必要がある



- てんかんとともに生きる
- 疫学
- 基礎知識
- 診断
- 治療
- 自己コントロール
- 予後
- 心理社会的側面
- てんかんのネットワーク





# famoses とは

(modulares Schulungsprogramm Epilepsie fuer Familien)

目的: てんかんのある子どもとその親・家族のために、てんかんの学習の機会を提供する

## コース

- ① 親のコース
- ② 子どものコース

対象: 8歳-12歳 人数: 4-7人

トレーナー 医師  
看護師  
保育士  
心理療法士  
作業療法士



てんかんのある子どもとその家族のための学習プログラム

famosesでは、てんかんについての知識や、てんかんと向き合う方法について学びます。子どものコースと、親と家族のコースに分かれていて、どちらも小グループで行います。同じ病気をもつ子ども、または家族と交流することはとても励ましになり、支えにもなります。

### 親と家族のコース

親と家族のコースでは、てんかんに関する基礎知識、診断、治療、予後と発達、てんかんと向き合い方などについて学びます。内容の半分は医学的な側面を扱い、残りの半分は心理社会的側面に重点を置いています。

- 1. 総論: てんかんと向き合い方について考えます。
- 2. 診断: てんかんの原因、診断について学びます。
- 3. 治療: てんかんの診断に基づいて治療法を決定することについて学びます。
- 4. 予後: てんかんが発達に与える影響について学びます。
- 5. てんかんと向き合う方法: てんかんと向き合う方法について学びます。

### 子どものコース

子どものコースでは、子どもたちはバーチャルの船旅に出発します。船に乗り込み、ほかの子どもたちと協力しながらさまざまな島を旅し、それぞれの島では、てんかんに関する多くのことを学びながら発見することができます。

- 1. 島: 仲間と協力して、てんかんの見方を広げます。
- 2. 島の島: てんかんは脳の電気の異常であること、てんかんの原因、診断、治療について学びます。
- 3. 火山の島: てんかんについて、診断のために、自分、家族、医師の役割があること、また、さまざまな発作、さまざまな検査法について学びます。
- 4. 島の島: てんかんが、自分、自分の目標を立てることや、病気の自己管理について学びます。
- 5. 島の島: てんかんについて、これまでに学んだことを振り返り、また、個人的な「ネットワーク」をつくれます。

famoses に関するお問い合わせ [meet@mossesjapan.com](mailto:meet@mossesjapan.com)

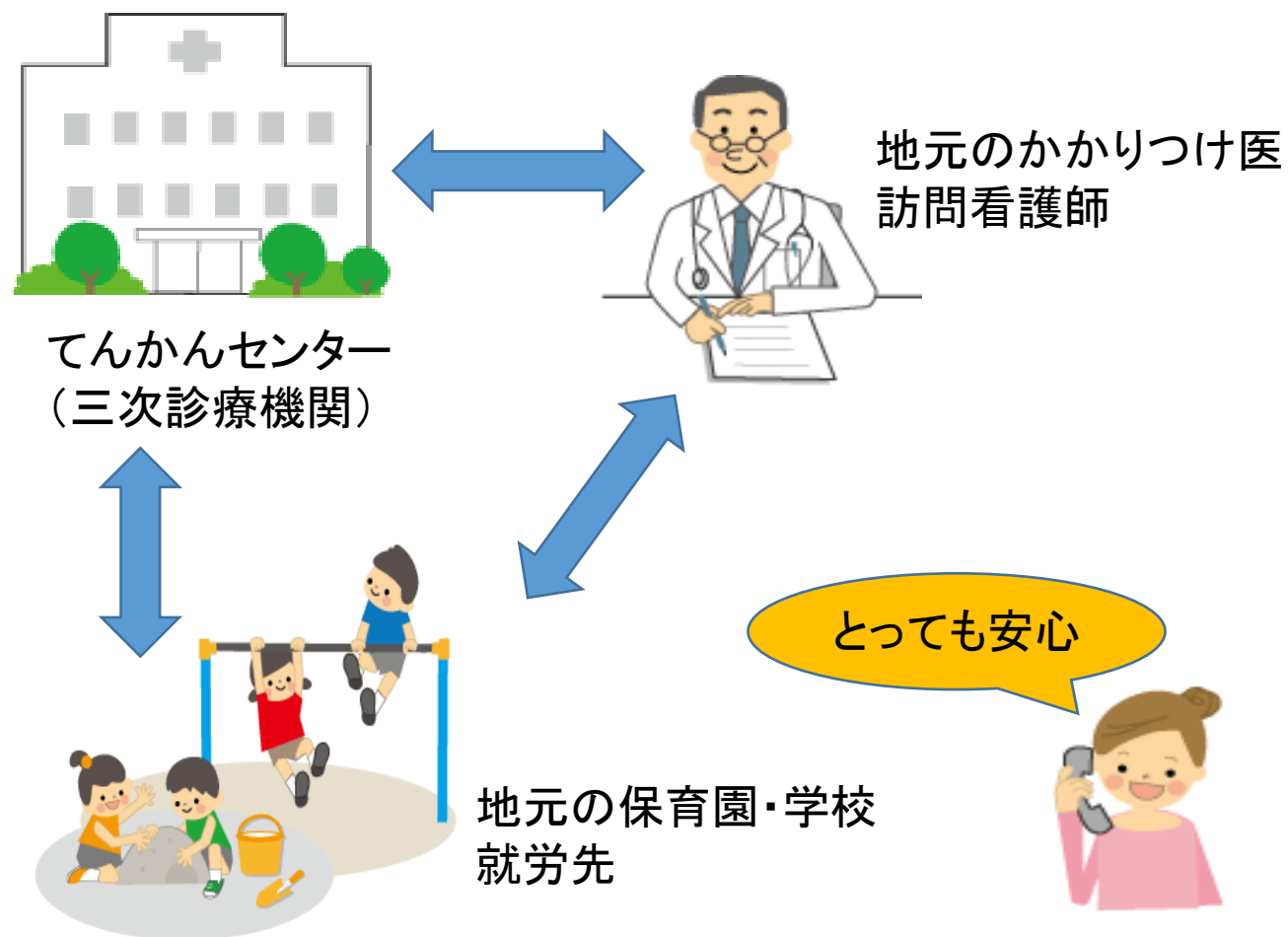
# 院内・外でのネットワークづくり

## 院内のネットワーク(家族交流)



家族教室の様子

## 院外のネットワーク(地域連携)



# てんかんの包括医療



- 医師 : 検査・診断・治療方針の決定
- 看護師 : 療養上の介助、生活指導(内服・生活習慣など)  
家族への支援
- 薬剤師 : 薬剤管理・指導
- 栄養士 : 栄養管理・治療食の指導
- 療育 : 発達・療育支援
- 心理 : 本人と家族の心理面への支援
- 学校 : 学業への支援
- リハビリ : 機能訓練・就労支援
- ソーシャルワーカー : 地域との連携

多職種が専門的な視点で患者・家族を捉えて  
情報を共有し、チームで患者の生活の質(QOL)の  
向上を図ることを目標とする